

教科	本校児童の学力の実態	実態から身につけさせたい「確かな学力」	学年で取り組む具体的な方策	評価
国語	○叙述や描写を基にして、文章の構成や登場人物の関係・心情などを捉えることができる。 ▲言語について、文や文章の中で使用できるまでの定着が見られない児童が多い。	・習った言語や漢字を文章に取り入れる力	・日々の書く学習・活動において、既習言語を使うことを意識させ、書くことに慣れさせる。	
社会	○単元の内容に興味をもち、意欲的に授業に取り組み、自ら疑問や気付きをもつことができる。 ▲社会的事象について資料から原因を推測し考えることが苦手な児童が多い。	・資料を読み取り、自分たちの日常生活と関連付けて考える力	・教科書や関連資料を配布し、多くのグラフや表から気付いたことや分かることを読み取る学習を意図的に行う。	
算数	○四則演算などの基礎計算力の定着が見られる。 ▲ほとんどの児童が板書をノートに書きとることができるが、自分の考えを図や表を用いて表現することが苦手な児童が多い。	・既習の内容や基礎的基本的な知識や技能を活用して問題を解決する力。	・授業の中で友達と考えを比較・検討する機会を設ける。	
理科	○観察や実験に興味をもち、取り組むことができる。 ▲新しく出会う用語や実験方法の注意点など学習の知識の定着に課題がある。	・学習して獲得した知識を生かす力	・振り返りを行ったり、生活と結び付けたりする。	
音楽	○歌唱や器楽など様々な学習活動に意欲的に取り組むことができる。 ▲二部合唱の経験が少ないため、合唱のよさや楽しさを感じていない児童が見られる。	・音の重なりやすさを感じ取る力や二部合唱の技能を身に付けようとする力	・斉唱と合唱を聴き比べる活動を行う。 ・本時の学習に入る前に既習曲(二部合唱)を歌うなど、二部合唱を行う機会を増やす。	
図工	○やる気と授業に活気があり、どんな課題も興味をもって取り組むことができる。 ▲発想力や技能に大きな個人差がある。	・豊かに発想し、表現する力 ・表現の幅。画材や、技法、描画方法などのバリエーションを増やし、思いに合った表現方法を選択していく力。	・プロの作家などの、よい作品をたくさん鑑賞し、色彩感覚や造形感覚を養っていく。 ・作品の完成時だけでなく、作品の中間などでも児童同士で鑑賞したり、助言をしたりする場面を意図的に増やす。 ・導入時に発展的な表現方法を紹介していく。	
家庭科	○調理実習の活動に意欲的に取り組む。 ▲裁縫実習の技能の定着が難しい。	・裁縫の技能(玉止め、玉結び、なみ縫い、返し縫い、ボタン付け、ミシン)	・裁縫実習の時間を十分に確保し、学び合いの中で苦手な児童もできる児童に個別に教わり技能が習得できるようにする。	
体育	○多くの児童が意欲的に取り組むことができる。 ▲記録を伸ばしたり、ゲーム勝ったりするためにどうしたらよいかという思考をあまりせず、活動をするだけになっている。	・よりよくなるための動きや作戦や練習を考える力	・よりよくなるための視点を与え、作戦時間や振り返り時間を確保する。	